

カワウの気嚢から見出された旋尾線虫類 *Desmidocercella incognita* の記録New local record of parasitic nematode *Desmidocercella incognita* from a cormorant (*Phalacrocorax carbo*) in Japan

植松 淳 1)・金坂 裕 2)・浅川満彦†1)

Jun Uematsu, Hiroshi Kanesaka and Mitsuhiko Asakawa

1) 〒069-8501 北海道江別市緑町 582 酪農学園大学獣医学部感染・病理学分野獣医寄生虫病学ユニット

2) 〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町 3-48-4 Bird Clinic 金坂動物病院

線虫類は、一般に、消化管や体部組織深部などにおいて見出されるが、鳥類では気嚢においても発見される。今回、おそらく、日本で初めての記録となる *Desmidocercella* 属旋尾線虫類を得たので、鳥類診療時の参考となると考え、ここに報告をする。

1998年8月、千葉縣市原市某所にて野生のカワウ *Phalacrocorax carbo* が救護され、同県内の金坂動物病院へ搬入した後、治療の甲斐無く斃死した。その後、その死体は酪農学園大学野生動物医学センター（以下、WAMC）へ冷凍で送付、剖検された。開腹時において、腹気嚢表面に約40個体の微小線虫を認めた（図1）。寄生部位の組織は肉眼的に正常で、浸出液なども認められなかった。線虫は10%ホルマリン液で固定後、ラクトフェノール液にて透徹、光学顕微鏡により形態観察された。宿主および寄生虫標本はWAMCに証憑標本として保存された（登録番号WAMC-As-2033）。

固定後の線虫で、雄9個体、雌10個体を用い、その形態および計測値（単位：体長mm以外は μm ）を求め、次のような値が得られた；雄：体長2.9-3.8 (3.50 ± 0.32)、体幅160-240 (205 ± 28.8)、口腔長23-46 (28.6 ± 7.3)、口腔幅12-23 (16.6 ± 3.7)、食道長270-447 (401.3 ± 55.2)、同・筋部97-159 (129.0 ± 20.9)、同・腺部173-322 (272.4 ± 45.8)、頭端から神経環92-150 (114.6 ± 19.9)、排出孔143-257 (177.7 ± 39.1)、右交接刺542-674 (592.6 ± 38.5)、左交接刺217-351 (267.2 ± 42.2)；雌：体長3.5-4.8 (3.97 ± 1.04)、体幅170-260 (219 ± 56.4)、口腔長18-32 (25.9 ± 8.5)、口腔幅8-18 (13.5 ± 4.5)、食道長345-554 (447.0 ± 118.9)、同・筋部97-161 (129.7 ± 36.1)、同・腺部236-409 (447.0 ± 118.9)、頭端から神経環97-185 (139.8 ± 41.4)、排出孔不明、尾端から陰門1642-2489 (1898.0 ± 251.8)、虫卵長41-55 (48.0 ± 3.7)、虫卵幅21-32 (27.5 ± 3.1)。

本線虫の宿主域と特異的な寄生部位および形態学的な概観（微小な体サイズ、円筒状の口腔、著しく不等長性を示す左右交接刺など）により、上科 *Aproctoidea* の科 *Desmidocercidae* に属することが確認された。さらに、食道長が体長半分の値より小さいこと、陰門が食道末端近くに配置されたこと、また宿主がウであったことなどから、*Desmidocercella* 属で（以上、Anderson and Bain, 1975）、特に、チェコスロバキアのカワウで報告された *D. incognita* Solonitsin, 1932 の計測値とほぼ一致したことから（Moravec et al., 1988）、この種と同定された。

この線虫が、寄生部位でどのような直接的あるいは間接的な病原性を与えるのかは、症例報告が見当たらず、不明とされた。しかし、たとえば多数寄生をするような場合には、当然、物理的な障害は避けられないであろう。今後、水鳥類で呼吸器疾患を疑う場合、この線虫の存在にも気をつけて頂ければ幸いである。なお、上科 *Aproctoidea* の科 *Aproctidae* についても、気嚢あるいはその周辺の皮下組織に寄生するが、最近、本邦のツグミ類やモズ類で見出されていることを付記する (Yoshino et al., in submission)。

参考

- 1) Anderson, R. C., Bain, O. (1976): Keys to genera of the order Spirurida. Part 3. Diplotriaenoidea, Aproctoidea and Filarioidea. In: Anderson, R. C., Chabaud, A. G. and Willmott, S. (Eds.): CIH Keys to the Nematode Parasite of Vertebrates No. 3. Wallingford, UK, CABI Publishing, pp. 59-116.
- 2) Moravec, F., Nasincova, V., Scholz, T. (1988): New records of helminth parasites from cormorants (*Phalacrocorax carbo* (L.)) in Czechoslovakia. *Folia Parasitol.* 35: 381-383.
- 3) Yoshino, Y., Hama, N., Onuma, M., Takagi, M., Sato, K., Matsui, S., Hisaka, M., Yanai, T., Ito, H., Urano, N., Osa, Y., Kuwana, T., Asakawa, M. in submission. Isolation of filarial nematodes belonging to the superorders Diplotriaenoidea and Aproctoidea from wild and captive birds in Japan.

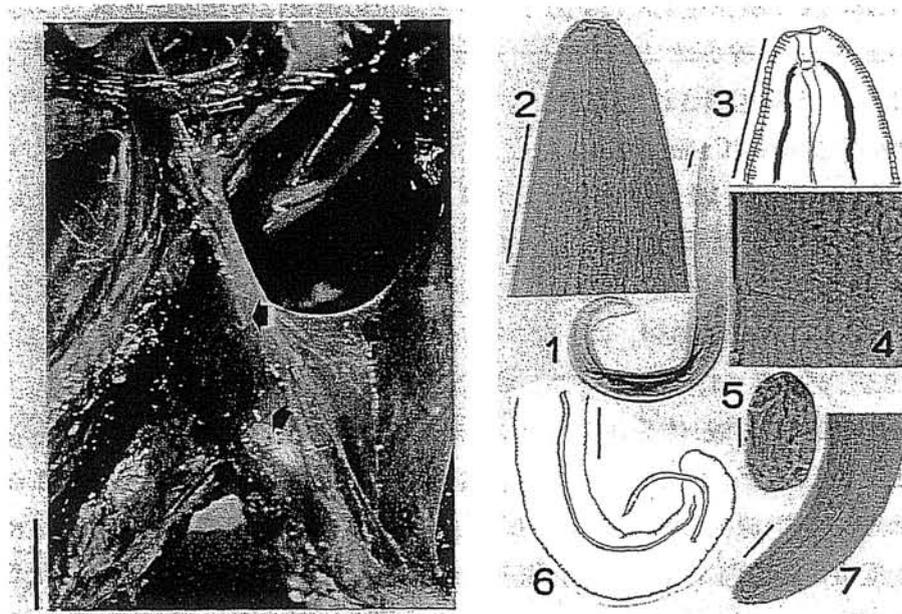


図 1

図 2

図 1. カワウの気嚢表面に認められた線虫 (矢印; bar は 10 mm)

図 2. 線虫 *Desmidocercella incognita* (bar は虫卵以外 0.1 mm、虫卵 0.01 mm)

- 1 : 雌全体部、左側面 ; - 2 および - 3 : 雌頭部 ; - 4 : 陰門、左側面 ; - 5 : 子宮内の含幼虫卵 ;
- 6 : 雄尾部、右側面 ; - 7 雌尾部、左側面.

†連絡先 : askam@rakuno.ac.jp